

経済学部経済学科（夜間主コース）カリキュラムマップ

養成人材	経済学部では、「経済学、経営学、法学をはじめとする社会科学の教育及び研究を通じて、自ら問題を発見し、分析し、解決することができる人材の育成」を基本目標とする。					
学位授与の方針	埼玉大学経済学部規程の定める教養・スキル・リテラシー科目（基盤科目及び外国語科目）及び専門科目を所定の期間内に履修して、諸科学に関する幅広い基本的知識と経済学・経営学・法学などの社会科学に関する十分な知識・能力を基に自ら問題を発見し、分析し、解決することができ、かつ所定の単位以上を修得した者に対して卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する。					
教育目標	<p>教育目標 1</p> <p>社会科学系専門科目を学修するための基礎を修得する。</p> <p>教育目標 2</p> <p>社会科学の中核的専門知識を修得する。</p> <p>教育目標 3</p> <p>社会科学の主要な応用的分野の専門知識を修得する。</p> <p>教育目標 4</p> <p>演習を通じて、社会科学の分野に関し、自ら問題を設定し、自ら問題解決を行ないうる能力、及びその成果を理論的な文章にまとめ、発表する能力を育む。</p>					
年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	生活経済学（'20）	受講者自身が具体的なライフプランを考えられるように、経済社会の中で個人や家族の位置づけ、家計のしくみを理解し、家計に関する統計資料を読み取れる、また、現状を踏まえ社会的な課題と個人としての課題を考えられることを目標とする。	◎			
1～4	社会福祉-新しい地平を拓く（'22）	社会福祉がこれまでどのような理念のもと政策および実践を通して生活問題を解決してきたのかを知る。子どもや障害、高齢、低所得などの分野ごとに現状と課題を理解する。市民として、また、専門家の立場から政策提言など社会発信できる基礎力をつける。	◎			
1～4	貧困の諸相（'23）	貧困・格差はなぜ解決されないといけないのだろうか。そして貧困・格差を解決するためにどのような方法があるだろうか。社会経済とその変化がどのように貧困・格差を生み出すのか、貧困・格差が社会にどのような問題をもたらすのか、社会の変化のなかで、絶えず生み出されていく貧困・格差問題とその対応について深く考えることを身につけることを目標とします。	◎			

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	暮らしに活かす不動産学 ('22)	不動産は、暮らしの中でも様々な活動の受け皿として基本的で必要不可欠なものである。本科目では、暮らしに必要な不動産学の基礎知識を学ぶことを通じて、豊かな暮らしの実現を目指す。この科目を修学することによって、日常的な、そして、人生の特別な局面で幾度か遭遇する不動産に関する問題に正しい知識にもとづいて向き合うことが可能となり、主体的に判断できるようになる。そこで、不動産に関する暮らしのなかの身近な疑問に答える形とする。	◎			
1～4	社会調査の基礎 ('19)	社会調査に関する基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所短所、調査倫理など）を身につけることを目標とする。	◎			
1～4	社会統計学入門 ('18)	履修者が、社会調査に基づく分析結果を読み取るために必要な基礎知識を習得すること、およびいくつかの分析技法を学習することを通して、自らがデータ分析を行うときに、どのような方法や手順ですすめていくかの指針を得ることを目標とする。	◎			
1～4	社会学概論 ('21)	社会学の基本的な考え方や概念について理解することを目標とする。	◎			
1～4	経済社会を考える ('19)	本講義では、なぜ経済社会は変化するのかについて、それぞれ生産者の社会と消費者の社会に分けて考えていきます。近代に入ってから、産業革命や消費者革命を経て、さらに変化につぐ変化をとげ、どのような変化をとげていくのか、という連続した変化に注目して、近代から現代に至る経済社会の本質を明らかにしていきたい。	◎			
1～4	一般市民のための法学入門 ('23)	本科目の履修を通じて、一般市民として、①日本の法学の全体像をつかむこと、②法学の基礎知識を習得すること、および③社会の諸問題を法的に考える、いわゆるリーガル・マインドを涵養することを目標とする。	◎			
1～4	グローバル化時代の日本国憲法 ('19)	本授業の目的は、二つあります。一つ目は、憲法および日本国憲法についての基礎的な知識を身に付けることです。それぞれの項目において、歴史的な考察と比較法的な考察を重視し、憲法について考える基礎的な力を養います。二つ目は、日本国憲法が直面している様々の現代的な問題を理解し、それについてどのように向き合っていけばいいのか、その手がかりをつかめるようにすることです。	◎			
1～4	政治学入門 ('22)	日本政治を含む現代政治行政を理解し判断するための基本概念や視座を会得し、あわせて今日の政治学の水準と特徴を理解することが、この授業の具体的な目標となる。	◎			
1～4	経営学概論 ('18)	経営学の基本的な論点と専門用語を習得し、現実の経営現象を考察する能力を身につける。	◎			

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	健康長寿のためのスポーツロジック('19)	スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠であることを学ぶ。分子生物学・運動生理学など、基礎医学の最新知見から、スポーツや運動が、寿命の延長など、健康長寿に効果があることを学ぶ。	◎			
1～4	現代の会計('20)	一般教養として習得することが求められる会計の知識を習得することを目標とする。具体的には経済活動を記録し、集計、整理して会計情報が作成される仕組みを理解し、その会計情報が社会のなかでいかに利用されるのか、すなわち社会的インフラとしての会計について考える知的滋養を養うことが目標である。	◎			
1～4	イノベーション・マネジメント('23)	本講義では、イノベーションについて初めて学ぶ受講生を対象に、その本質を理解するとともに、その基礎的な用語や考え方を習得することを達成目標とする。イノベーションについて、20世紀初頭のシュンペーターに始まり、1970年代からのイノベーションの定義、その後、オープンイノベーション、サービスイノベーション、そして近年のデジタルイノベーションに至るまで、イノベーション・マネジメントはどのように社会実装されていったのか、そのマネジメントについて理解する。	◎			
1～4	環境問題のとりえ方と解決方法('17)	環境問題の諸側面を様々な視点からとらえるとともに、その解決方法に関して基礎的かつ広範な視点を理解するとともに、身近な環境問題から地球環境に至るまでの新しい環境に関する考え方を理解する。	◎			
1～4	生活環境と情報認知('20)	生活環境において、収集され運用されている情報にどのような種類のものがあるのか理解し、その情報の収集手法、処理方法について、具体例を通して学ぶことを目標とする。高齢化した日本の社会の生活において、医療・福祉分野も含め、消費者が恩恵を受ける情報のあり方、扱い方についても学ぶ。		◎		
1～4	リスク社会の家族変動('20)	①現代社会とリスクについて、基礎的理解を得る。 ②現代日本が経験しつつある大きな家族変動について、正確な知識を身につける。 ③家族が、多くの領域の諸課題に深く関連していることを理解する。 ④現代および近未来に私たちが直面する諸課題を解決するために、家族に関する知識をもとに科学的に分析・考察する力を身につける。		◎		
1～4	人生100年時代の家族と法('23)	この講義は、法律学を体系的に学習した経験のない受講者であっても、家族という身近な存在・事象を通じて、法律学の基礎的な知識を修得し、かつ、法的なものの考え方（法的思考）を感得することを目標としている。そのためには、〈家族と法〉に関するさまざまな法律や条文、あるいは、実際に発生した事件や問題を題材にして、法律の存在理由や条文の意味内容、紛争解決の方法などについての知見を得ることが重要である。さらに、この講義の究極の目標は、受講者自身が「家族の幸福を促進するための法制度」について考えたり、「よりよい社会を実現するための法制度」について考えを深めたりすることである。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	公衆衛生 ('19)	公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。15回の講義を通じて、公衆衛生学について理解することを目標とする。		◎		
1～4	認知症と生きる ('21)	認知症とはどういうことか、医学的、社会的、個人の人生というそれぞれの視点から理解する。 認知症者の発症前から、診断、診断後の生活の変化、様々な困難な状況、看取りという進行性の疾患としての一連の流れの中から、その都度あるべきサポートの方法を考えられる。 認知症の有無にかかわらず、どんな状態になっても暮らしやすいまちづくりの実現にむけた取り組みを学ぶことができる。 認知症をとりまく社会システムや制度などの様々な取り組みを知り、それぞれのメリットデメリットを認知症と生きる人の立場で学ぶことができる。		◎		
1～4	今日のメンタルヘルス ('23)	メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。		◎		
1～4	地域福祉の課題と展望 ('22)	①「地域福祉」とは何か。その成り立ちや実践事例などから、「地域福祉」の考え方を理解すること。 ②少子高齢化、情報化、グローバル化が進展する中、暮らしの諸課題を解決し、個人の生活を守っていく上で、住民と専門職、行政・NPO等、地域における様々な活動主体のつながりや、それらの参加と協働が欠かせないことを理解すること。 ③地域福祉計画づくり、当事者の参加、福祉教育とボランティア学習、社会的企業の可能性など、新たな地域福祉の創造に向けた手法と具体策を理解すること。		◎		
1～4	ライフステージと社会保障 ('20)	社会保障を利用する対象者ごとに、どのような制度があるのかを理解します。そしてこの制度がなぜあるのか、どのような制度構造を持っているのか、どのような問題を抱えているのかを把握します。その上で、現在直面している、あるいは、将来直面する問題に対処するため、どのような改革をすべきかを考えます。		◎		
1～4	社会政策の国際動向と日本の位置 ('23)	現在のグローバリゼーションの進展下での「新しい社会的リスク」（2020年の新型コロナウイルスによる世界的パンデミックもこれに含まれる）への各国のダイナミックな対応を示し、我が国の社会政策の示唆とする。学生には、世界の社会政策の政策動向や政策原理を知ることにより、日本の社会保障・労働政策が抱える課題を認識し、目指すべき政策選択の指針としてもらいたい。		◎		
1～4	心理学統計法 ('21)	心理統計学の理論的な基礎、とくに推測統計学や統計的因果推論についての理論背景を理解し、そのうえで実際のデータ分析を行うことができるようになることを目標とする。具体的には、データの可視化や要約、相関係数や連関係数、平均値の推定、二つあるいはそれ以上の平均値差の推定、などについて実践できるようになることを目指す。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	知覚・認知心理学 ('23)	知覚・認知心理学は、実証科学の一員です。実証科学とは、実験、調査、事例研究を通して得られた事実（エビデンス）に基づいて、仮説やモデルを考案・検証する科学です。この授業では、単に、人間の認知に関する現象や事実を体験し理解するだけでなく、それらの背後に潜む人間の認知のメカニズムを、いかに実証するか、その方法論も併せて理解することが、目標となります。それを踏まえて、公認心理師の基礎科目として、その知識と理解が深まることを期待します。		◎		
1～4	進化心理学 ('23)	本講義を通じて生物学における進化論とはどのような考え方であるのか、それがヒトの心のはたらき・社会行動とどのように関わるのかを理解することを第一の目標とする。また、進化心理学の主たる知見についての知識を身につけながら、その考え方を修得することを第二の目標とする。		◎		
1～4	社会・集団・家族心理学 ('20)	①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。 ②人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。 ③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。		◎		
1～4	都市と地域の社会学 ('18)	都市社会学に関する基本的な概念と理論、考え方等を理解し、身近な地域社会の諸現象等についての的確に考察できるようにする。		◎		
1～4	金融と社会 ('20)	この科目では、幅広い観点から金融の社会的役割について考え、ダイナミックに変化する現代社会における金融の意義と公共性について考察することを目標とする。大きく分けて三つの目標がある。第一に、金融の仕組みと機能の基礎を学ぶこと、第二に、新しい金融商品や金融取引を知ること、そして第三に、それらを生活者として利用するために、新しい金融の動きを見る目を養い、経済社会に与える影響を理解することである。この講義は、目の前の資産運用が大きな関心となっている高齢者、住宅ローンを抱え老後が心配な現役世代、国債や年金という負担を押しつけられそうな若年世代など、様々な人々にとって有益だろう。		◎		
1～4	グローバル経済史 ('18)	15世紀以来の世界経済の流れと、それに関わる主要な商品や地域開発の状況、およびそうした経済動向と連関する地域間関係の歴史的变化を把握する。		◎		
1～4	雇用社会と法 ('21)	本講義は、雇用社会で何が問題となっているのかを把握し、解決の筋道を考える法的思考力を養うことを目標とする。広い視野で雇用をめぐる法的問題について考えることが必要である。講義を通じて、労働法とは何か、働くとは何か、法的なものの考え方や、日本の働き方の特徴や歴史的背景などについて、受講生自身が理解を深めていくことができれば望ましい。		◎		
1～4	現代経済学 ('19)	経済学の理論の細部には立ち入らず、ノーベル経済学賞受賞者の生い立ちと研究業績の現代社会的意義について、分かりやすく解説していきたい。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	財政と現代の 経済社会 (19)	本講義では、財政と経済、そして社会との相互関係が理解しやすいよう講義する。また、私たちにとって財政システムとは何なのか、一見、遠く思える財政システムが、実は私たちの生活と密接にかかわっており、その分析・理解能力を身に付けることがすなわち、現代社会を理解することに他ならないことを理解できるようにしたい。		◎		
1～4	市民生活と裁 判 (22)	一般市民が広く遭遇する可能性のある代表的な紛争について、その予防や解決のために必要とされる基本的な法律知識を修得させて、受講者が実際に何らかの紛争に遭遇した場合に、その紛争を法的枠組みによる解決の土俵に乗せることができる能力を身につけさせることを目標とする。また、授業を通じて、紛争とは何か、法律とは何か、法律による紛争解決とは何か、裁判とは何か、実体的正義と手続的正義の区別、法的なものの考え方、日本社会の法的な特徴などについて、受講生の理解を深めることができれば望ましい。		◎		
1～4	民法 (22)	民法に関する基本原則および主要な制度を概観することを通して、基本的理解の確立を図るとともに、私たちの日常生活および経済活動において民法がどのような役割を果たしているかについて実践的に認識することを目的とする。		◎		
1～4	行政法 (22)	市民生活に関わる個別法の各論的な知識を一定程度学んだ上で、それらの個別法に共通する基本的仕組みを理解できること。		◎		
1～4	国際法 (19)	国際法の各分野における重要な基礎概念について、その歴史的背景を踏まえつつ、現段階でのあり方について理解することを目指す。さらには、現行の制度が今後も現在のようなかたちで存続できるのか、そうでないとすればどのようなかたちがありうるのかについても、構想できるようにしてもらいたい。		◎		
1～4	著作権法 (22)	本講義を通じ、著作物等の利用と著作権法の関わりを的確に理解し、日常生活の中で法に基づく適切な判断ができるようにするとともに、職業生活において著作物の創造及び利用を行う上で必要となる法的素養を培うことができるよう、著作権制度の基本的事項について総合的かつ体系的に学習する。さらに、現実社会のなかで著作権を巡り日々生じている様々な課題について多面的に考察できる力を培う。		◎		
1～4	日本政治外交 史 (19)	1) 近現代日本の政治、外交についての基礎的な知識を得る。 2) 現代の政治や国際関係について、歴史的に考える視点を身につける。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	行政学概説 (20)	本講義を通じて、現代日本の行政が持つ様々な特性を理解することを目標とする。行政に対する理解は世間にも多数存在するが、一方では安直な印象やイメージに留まることもあれば、他方で、為政者の側への感情移入になってしまうことも多く、バランスを欠くこともある。被治者である一般の人々にとって、避けることのできない行政との関わりに向けて、多角的な特性を踏まえることで、二枚腰の構えを持てるようにすることを目的とする。		◎		
1～4	現代の国際政治 (22)	現代の国際政治を理解し判断するための基本概念や視座を獲得することが目標となる。同時に歴史的な経緯と構図を押さえることの重要性も意識して欲しい。		◎		
1～4	現代東アジアの政治と社会 (20)	①東アジアの政治と社会が形成されてきた歴史過程を、グローバルな視点から位置づける視角の重要性を認識する。 ②東アジアの政治と社会の変容の相互作用が各々個別の政治体制や社会をいかに特徴づけてきたか理解する。 ③各国および地域が国際環境の変化をどのようにとらえて内在化してきたかを歴史の文脈から分析できるようになる。 ④東アジア全体が共通に抱える社会問題の原因とその対策を考察する。 ⑤21世紀の東アジア関係の理解に資することとする。		◎		
1～4	ヨーロッパ政治史 (20)	①近世の絶対王制から19世紀末までの政治発展をたどること、各国毎の20世紀の政治の特色がいかにして生まれてきたかを解き明かした上で、戦後政治の展開と、現代西欧政治の抱える諸問題について、比較の観点から理解を深める。 ②単に歴史上の著名な人物や事件をたどっていくのではなく、その時代・地域の政治がもっていた「構造」を解き明かすことによって、指導者の選択や変動のダイナミズムを内在的に理解し分析できるようにする。		◎		
1～4	マーケティング (21)	マーケティングの全体像を理解するとともに、基礎的な用語や考え方を習得し、企業のマーケティングを自ら評価したり考案したりできるようにする。		◎		
1～4	国際経営 (19)	この科目の目標は、グローバルな企業経営活動に従事する上で、最も重要と思われる問題についての理論的知識と具体的な行動指針を履修者に提供することにある。この講義により、履修者はグローバル企業の活動内容を理解し、国際的な活動を行う職場において参考にしうることを目指す。		◎		
1～4	SDGs下のアジア産業論 (23)	本科の目標は、第1に経済学における「国民経済計算」や「産業連関表」の入門的な基礎知識を取得する。第2に、アジア主要国の「SDGs下の成長戦略」の現状と今後の在り方を理解する。第3に、グローバル化した世界経済においてその流れとは別に地域統合が進行するなかで、アジアの「地域統合」の現状と今後の在り方を理解する。以上の準備をしたうえで、今後の「アジア人材」育成の在り方のビジョンを持つ。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	管理会計 ('22)	管理会計情報の意義や役立ちについて理解し、意思決定と業績評価という2つの役割に資する管理会計情報の生成と利用について習得する。		◎		
1～4	簿記入門 ('22)	簿記のルールはきわめて単純明快であり、その習得はさほど難しいものではありません。また、簿記は技術であるので、ただ単に教科書を読んでいるだけでは不十分で、実際に手を動かして体で覚えて初めて使いこなせるようになるものです。したがって、各章の例題や章末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が必要とされます。		◎		
1～4	ファイナンス入門 ('23)	ファイナンスの学習がどれだけ大事かという、ファイナンス理論の多くがノーベル経済学賞を受賞していることで分かるだろう。その理論とは、ポートフォリオ理論、CAPM、MM理論、ブラックショールズモデル、行動ファイナンス等があげられる。これら理論のエッセンスは、各回で紹介される。また、理論だけでなく現実との照応についても可能な限り解説している。こうした理論と実務を身につけることによって、経済社会でのファイナンスの役立ちについて理解することを目標としている。		◎		
1～4	現代の内部監査 ('22)	内部監査は組織におけるインフラ的な存在である。組織運営が順調な時には、改めてそれを意識したり、感謝したりすることはないが、一旦、不祥事等問題が生じたときには、その存在がクローズアップされるのである。しかし、問題が生じてからでは遅いのである。日頃から内部監査に対する意識を高め、それに磨きをかけることが大切である。本講義の目標は、内部監査の意義と役割を踏まえ、様々な組織における内部監査のあり方について理解を深めることにある。		◎		
1～4	NPO・NGOの世界 ('21)	内外の民間非営利セクター全体に対する基本的理解の増進、公益／他益を目指すNPOやNGOなどに関する正確な理解、NPOとNGOの区別、NPO法人・社団法人・財団法人の違いの理解、税制優遇の基本的理解、グローバルな市民社会及び市民社会組織（CSO）の状況に対する関心の向上、学習者が自ら民間非営利組織に参加したり創設するための土台作り		◎		
1～4	経営情報学入門 ('23)	この科目では、「情報で経営する」現象を説明する代表的な理論・モデルを学習して「情報を経営する」現象を理解する。混沌として激しく変化するように見える経営情報を巡る現象を、網羅的ではなく体系的に捉え、企業組織の有効な情報利活用について理論的・実践的に学習する。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	大学マネジメント論 ('20)	政治・経済・社会が変容する過程で、大学への期待や大学が果たす役割も日々変容を遂げている。大学の役割は一般的に教育・研究・社会サービスといわれるが、設置者や個別大学の設置目的や歴史、立地等により、その運営方法や機能の果たし方、経営上の課題は一様でない。そのため、大学の歴史や制度等の大枠をまずは踏まえた上で、設置者別の組織・人事・財務などの基本事項をおさえ、その上で教育、研究、社会サービスといった個別機能に応じたマネジメントに関わる基本的概念や知識の獲得を目指す。		◎		
1～4	フードシステムと日本農業 ('22)	フードシステム全体の構造と、それを構成する産業主体、消費者の行動の基本原則を認識できるようにする。また、フードシステムが抱える課題を認識できるようにする。それらをもとに、関係主体が共存でき、望ましいフードシステムが将来世代にわたって存続できるように、フードシステムが抱える課題の改善方向を論じられるようにする。		◎		
1～4	住まいの環境論 ('23)	地球規模の環境の課題や地域規模の社会環境の課題の中での住まいの位置づけが分かること。居住者にとって健康的で快適なウチの温熱・空気・光・音環境と住まいのつくりとの関係性を知り、住まい方の影響についても理解すること。また、ソトを適切に捉え、それらを建物や住まい方の工夫で調整しながら、住まいのウチに取り込み快適性が維持されるということを科学的な知見に基づいて分かるようになる。さらに、超高齢社会における住環境の問題点を知り、持続可能な社会に向けた住まいや住まい方の課題を知り、適切な解決策の方向性を考えられることが望ましい。		◎		
1～4	環境を可視化する技術と応用 ('23)	環境問題は直接目に見えないことが多いため、その本質を理解することは難しい。これを画像として可視化することにより、現在の環境を把握し、問題の生じる仕組みの理解が助けられる。本授業では、①我々の身近な環境から、地球規模の環境問題といった様々なスケールの環境について、コンピュータシミュレーションやリモートセンシング、CAD/GIS、情報技術などを用いて可視化する方法について習得する。②さらに、可視化画像を適切に読むことで、それら環境を理解する。③そのうえで、可視化技術を環境の保全や、まちづくりにおける環境の創造に役立てる手法を理解する。		◎		
1～4	「人新世」時代の文化人類学 ('20)	文化人類学の諸概念と術語を体系的に獲得し、フィールドワークをはじめとする人類学に特有な方法論と視点を身につける。そして、それらを応用して現代の地球規模の課題にアプローチすることを学ぶ。とりわけ、地球規模の問題を私たち自身と共有する世界の様々な地域の人々の多様な生き方を学び、地球規模の問題とローカルな問題の関係を人類史的な視野でとらえる力を養うことを目標とする。また、そうした世界の現状において、ごく当たり前のことばになっている「文化」にどのような問題があるか、批判的に検討し、人類の現状に即した新しい世界観を醸成する。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	近現代ヨーロッパの歴史 ('22)	フランス革命から現代までのヨーロッパの歴史を展望することを通じて、近現代世界の特徴を比較考察する視角を学び、歴史的思考をはぐくむことを目標とする。		◎		
1～4	博物館経営論 ('23)	総合博物館、自然史博物館、美術館、動物園といったさまざまな館種の博物館の管理・運営について体系的に理解し、「博物館経営」という枠組みの中でそれらを捉えることができるようになります。併せて、学芸員として博物館経営を実践する際の基礎的な能力を養います。		◎		
1～4	情報社会のユニバーサルデザイン ('19)	・ユニバーサルデザインやアクセシビリティの概念と世界的な流れを把握し、企業や教育、様々な社会活動において、多様なユーザーのニーズを考慮した情報発信やユーザー支援が行えるようになる。 ・グローバルな観点から、人間の多様性と、今後の情報社会の在り方について自分の意見を持つようになる。		◎		
1～4	情報セキュリティ概論 ('22)	社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につける、情報セキュリティのシステムの・運用的な課題を理解する、最新の動向を、継続的に学習するための、基本的なコンピテンシー（能力）を身につける、技術者倫理における情報倫理の課題を理解する、利用者教育としての情報セキュリティ教育の手法を身につける		◎		
1～4	微分方程式 ('23)	微分方程式の解は、常に存在するわけではなく、存在が示されていても初等関数で記述できるとは限らない。どのような場合に解が存在するのかを考え、解の性質が記述できる場合はどのようなときかを理解することは重要である。講義では、微分積分学で学んだ基礎知識で一般解が求まる微分方程式の解法から始める。2階までの微分方程式を通して、微分方程式の基礎を理解することが目標となる。また、積分変換論などの解析的な道具を用いて、微分方程式を取り扱えるようになることも目標のひとつである。		◎		
1～4	統計学 ('19)	確率的なバラツキを把握するために不可欠な確率の基本的な性質やさまざまな確率モデルの特徴を把握する。そして、バラツキをもった現象に対して適切な確率モデルを選択し、統計的推測を行うことや、複雑な現象に対して統計モデルを活用して表現し、その特徴を見出すことができるようになることを目標とする。		◎		
1～4	数学の歴史 ('19)	文化における数学の歴史的具體相を見ることによって、数学が孤立した学問ではなく、様々な要因のもとで展開し、また多くの学問領域に影響を与えたことを学ぶ。さらに高校まで学んできた数学がいったいどのように成立したのか、その背景を知り、数学が本来持つ多様性を再発見する。そして今日私たちが抱く数学のイメージを歴史を通して根本的に再検討していく。		◎		
1～4	死生学のフィールド ('18)	さまざまな死生の現場で直面する問題について知識を習得するとともに、自らが直面する生き死にの問題について避けることなく取り組み、人生を切り開いていくための死生観や問題対応能力を養うことをめざす。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	色を探求する ('23)	多領域にも携わるテーマのため、広い領域・分野層の学生に受講を勧めたい。 1. 「色」と言う多様な分野を包括する概念を通し、物事を多方面から立体的に捉えられるような柔軟な視点でものを見、考える姿勢を身につける。 2. 本科目をきっかけに、広く学ぶ姿勢を身につけ、すべての学問は関係ないよう関係していることを知る。 3. 本科目を学ぶことで、居心地や生きやすさの工夫などを試みるなど、日常生活の場にも発展させていく。		◎		
1～4	開発経済学：アジアの農村から ('20)	開発途上国の現場を見聞きしただけで、理解したと思うことは危険である。「百聞は一見に如かず」というが、そのあとに「百見は一考に如かず」と続くことを忘れてはならない。本講義では、具体的事例を多く提示することから、多くの「一见」に接することができるが、重要なのは開発課題の背後にある因果関係を捉える、すなわち「一考」である。本講義の目標は、この「一考」の方法の習得にある。		◎		
1～4	世界の中の日本外交 ('21)	グローバル化が、世界の中に「日本」が入り込み、日本の中に「世界」が入り込むという「入れ子構造」を伴って進展していることに鑑みて、世界と日本の繋がりの中で外交問題について考える姿勢を養う。また、歴史的な経緯と構図を押さえることの重要性を意識してほしい。グローバル化と呼ばれる現象の中で日本社会が直面する問題を考えるための知的な枠組みを提供したい。		◎		
1～4	新時代の組織経営と働き方 ('20)	本講義の目標は、初修者が経営組織やキャリア（職業キャリア、ライフキャリア）について社会と関連づけて理解できるよう手助けすることである。そのために、とりあげた各テーマの基本的な概念を紹介し、わかりやすく具体的に説明して行く。		◎		
1～4	環境と社会 ('21)	3つの学問分野のそれぞれの観点を含め、環境問題に関して、一定レベルの総合的な理解を得ることを目標とする。		◎		
1～4	エネルギーと社会 ('19)	まず、エネルギー利用史、エネルギーと社会・経済との関係、エネルギーと地球温暖化について学ぶ。そして、エネルギーとは何かに始まり、エクセルギーとアネルギーの概念、エネルギー変換と熱力学など、エネルギー学の基礎を学び、エネルギーとエネルギー変換、エネルギー技術について系統的に学習する。そして、低炭素社会・持続可能な社会の実現に向けたエネルギー技術開発と今後の展望と課題についてまとめる。		◎		

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	情報化社会と国際ボランティア ('19)	<p>① 知識としての国際ボランティア活動ではなく、自らも参加できる国際ボランティア活動であることを知る。</p> <p>② 国内外における国際ボランティア活動の多様な実践を知り、身の回りでも自分のできることがあることを知る。</p> <p>③ 情報化の進展によって、情報通信技術 (ICT) を利用した支援やサイバー空間を介した、新たな形態のボランティア活動が可能であることを知る。</p> <p>④ そのためのいろいろな組織があり、学ぶ場があることを知る。</p> <p>⑤ ボランティア活動は、他者を支援する機会というばかりでなく、ボランティア自身が人として学ぶ場、相手からたくさんのお話を教えてもらう場であることに気づく。</p>		◎		
1～4	情報技術が拓く人間理解 ('20)	<p>情報通信技術がいかに発展しようとも、それを利用する人間の生命現象としての情報処理のあり方は変わらない。この科目では、情報通信技術の発展が人間そして社会にもたらしている変化やその将来を展望するとともに、生命における情報処理について学ぶ。＜変化＞と＜不変＞とをともに視野に収めることによって、激変しつつある情報環境に対応する基礎的な視点を涵養することを目的とする。</p>		◎		
1～4	暮らしに役立つバイオサイエンス ('21)	<p>「微生物」は、味噌、酒などの醸造食品、抗生物質、化成原料などの有用物質生産、病原性大腸菌等による疾患、汚染物質の分解等の排水処理等など、様々な分野で我々の暮らしと深く関わっています。このことを知り、各人の「微生物」に対する理解を深め「微生物」に対する科学的概念の構築を促します。</p>		◎		
1～4	社会保障論	日本の社会保障の仕組みと問題点を理解する。			◎	
1～4	近代日本経済史	近代日本経済史における基本的な歴史事実および発展プロセスを理解し、説明できるようにする			◎	
1～4	経営管理論	イノベーションとマネジメントの基本的内容、今日的課題を理解する。			◎	
1～4	地方自治論	地域の要素となる主体、環境、制度を維持させていくためのマネジメントの考え方と現実を学修する。			◎	
1～4	会社法	会社法の総論・株式・機関・計算等に関する意義と内容を修得する。			◎	

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	国際社会論	国際社会学の課題である「境界を越えて'移動する'つながる'帰属する'という社会現象」を理解するための分析枠組みや方法論を身につける。			◎	
1～4	計量言語学基礎	実習を通じて、言語が使用場面や使用者間の関係性によって変化する姿を観察し、考察する。			◎	
1～4	経済法	独占禁止法の規律対象行為、手続きについて理解し、現実には生じうる問題について分析できるようにする。			◎	
1～4	環境経済学	環境政策の基礎理論や基礎概念、環境問題の解決のために行われている政策について理解し、環境問題の解決のための政策を自分で考案できるようにする。			◎	
1～4	応用ミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎概念と実際的な問題への応用例について理解することを目標とする。			◎	
1～4	民事訴訟法	民事訴訟の基本概念、手続の流れ、およびその意味を正確に理解できるようにする。			◎	
1～4	計量経済学	高校程度の数学を出発点として、線形回帰分析を理解する。			◎	
1～4	企業倫理	企業経営の倫理的側面、コンプライアンスなどについて理解する。			◎	
1～4	市民生活と憲法	憲法を理解し、具体的問題について自分なりの解決策を考えられる力を身につける。			◎	
1～4	地方財政論	地方財政制度の基本的な仕組みと特徴、諸課題を検討し、地方財政制度の将来像について考える。			◎	
1～4	会計学概論	簿記記録の対象となる企業活動を把握し、財務諸表（損益計算書と貸借対照表）を作成できるようにする。			◎	
1～4	国民経済計算論	国民経済の全体に関する経済統計である「国民経済計算」を理解することによって、さまざまな経済統計、特にGDP統計に対する読み方が深まることになる。			◎	

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	金融論	大学学部レベルで必要な金融の基本知識を習得し、現実の金融現象を理解・評価できる視座を身につける。			◎	
1～4	国家と財政	財政学の基本的な理論と日本財政の現状、課題を理解する。			◎	
1～4	現代国際経済論	国際金融と国際貿易に関する基本的な理論を修得し、現実の国際経済の動きを理解できるようにする。			◎	
1～4	グローバル・ビジネス	企業の国際活動の中核となっている経営戦略について、技術と市場の融合という観点から理解する。			◎	
1～4	国際マーケティング論	グローバル・マーケティングを理解し、企業の国際活動をマーケティング論の視点から分析できるようにする。			◎	
1～4	経営戦略論	経営戦略の基本概念を理解し、企業経営を戦略的視点から考えることができるようにする。			◎	
1～4	経営財務論	株式会社の経済的機能、財務制度・政策にかかわる諸問題を総合的に分析する能力を身につける。			◎	
1～4	経済政策論	現代日本の経済政策に関する重要な制度を理解する。			◎	
1～4	都市計画論	都市及び都市政策の概況を理解し、将来のあり方を導く思想・論理を考え、地域での活動ができるようにする。			◎	
1～4	雇用関係論	労使関係の諸側面と職業生活との関わりを具体的に探究し、充実した職業生活を送れるように準備する。			◎	
1～4	マーケティング戦略論	マーケティング管理の基本的な考え方と理念、マーケティング・ミックス戦略を理解する。			◎	
1～4	現代日本経済論	日本経済の現状を理解し、日本経済が抱える問題点を考える。			◎	

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1～4	応用マクロ経済学	乗数理論やIS-LMモデルを用いた比較静学分析を展開することができ、古典派とケインジアンの違いについて洞察を深めることができる。			◎	
1～4	社会政策論	現代の雇用と働き方に関して理解する。雇用と働き方に関する諸問題解決のための政策課題を理解する。			◎	
1～4	比較経営論	欧米から始まった流通業態の誕生と発展過程を学ぶ。日韓小売業における発展過程の共通点と相違点に関する知識を修得する。			◎	
1～4	経営史	企業経営について、歴史的視点をふまえ、客観的な見方を養う。			◎	
1～4	生産管理論	生産管理の基本的な概念を理解し、現代社会で起こる事象について歴史的な視点を持って考察できるようにする。			◎	
1～4	現代アジア経済論	アジア経済の実態とダイナミクス、アジア各国が直面する諸課題、日本とアジアの関係を理解する。			◎	
1～4	統計リテラシー	マクロ経済学、景気分析やその他の経済分析に用いられる基本的な経済指標・データの意味、役割、位置づけ、使い方、見方をマスターする。			◎	
1～4	サプライ・チェーン・マネジメント	サプライ・チェーン・マネジメントに関する基礎理論について理解する。			◎	
1～4	コスト・マネジメント	利益計画、原価管理など、管理会計の基礎的な知識を身につける。			◎	
1～4	経済社会とジェンダー	現在の経済社会の基盤となる社会システムや法制度が誰にとってどのような影響を及ぼしているのかについて、ジェンダー視点をもって分析できるようになる。ジェンダー平等な社会システムを構想するための分析視点を獲得する。			◎	
1～4	演習	社会科学についての専門知識を深化させる。				◎